

第4章 製造間接費の部門別計算

会社の規模が大きくなると部門ごとの分業体制になり、各部門で発生する製造間接費をどのように各製品（各仕掛品）に配賦するかを考える必要が生じてくる。



通常、製造部門で発生した製造間接費を各製品（各仕掛品）へ配布することはしやすいが、補助部門で発生した製造間接費を各製品（各仕掛品）に配賦するためには工夫が必要となる。

※補助部門で発生した製造間接費を各製品に配賦するための具体的な方法

- ①まず、各補助部門で発生した経費を算出する。
 - ②その経費を各製造部門へ配賦する。
 - ③各製造部門から各製品へ配賦する。
- ① ～③の配賦の方法には2つの方法がある。

(1) 直接配賦法

補助部門でかかった費用を直接製造部門のみに配賦する方法（補助部門間の経費のやり取りは無視する方法。）

部門費集計表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
部門個別費	29,600	10,000	12,000	4,100	2,000	1,500
部門共通費	6,400	2,000	3,200	300	400	500
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000

※部門個別費とはどの部門で発生するかを直接認識できる費目。

部門共通費とは、ども部門で発生するかを認識できない（例：建物の減価償却費、建物の保険料、電気代など）。部門共通費は、各部門の床面積などの基準で配賦する。

配賦基準資料

補助部門	配賦基準	第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
設備部門	機械運転時間	40 時間	60 時間	—	8 時間	2 時間
修繕部門	修繕回数	15 回	5 回	—	—	—
倉庫部門	従業員数	15 人	15 人	8 人	2 人	2 人

次のように補助部門費の経費を各製造部門へ配賦する。（設備部門の「8 時間、2 時間」、倉庫部門の「8 人、2 人、2 人」は無視して製造部門へ配賦する。）

製造間接部門別配賦表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000
設備部門費				←		
修繕部門費				←		
倉庫部門費				←		
製造部門費						

※考え方：簡便なやり方だが、やや乱暴なやり方である。

(2) 相互配賦法

2段階に分けて補助部門の製造間接費を製造部門へ配賦する方法。まず、第一段階で補助部門にも配賦を行い、第二段階で製造部門にのみ配賦していく。

部門費集計表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
部門個別費	29,600	10,000	12,000	4,100	2,000	1,500
部門共通費	6,400	2,000	3,200	300	400	500
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000

配賦基準資料

補助部門	配賦基準	第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
設備部門	機械運転時間	40 時間	60 時間	—	8 時間	2 時間
修繕部門	修繕回数	15 回	5 回	—	—	—
倉庫部門	従業員数	15 人	15 人	8 人	2 人	2 人

第一段階として、補助部門費を製造部門と補助部門に配賦する。(倉庫部門から倉庫部門など、同じ部門へは配賦しません。)

製造間接部門別配賦表 (一次配賦)

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	(4,400)	(2,400)	(2,000)
(一次配賦)						
設備部門費						
修繕部門費						
倉庫部門費						
製造部門費						

第二段階として、残った補助部門の経費を製造部門のみに配賦する。

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000
(一次配賦)						
設備部門費	4,400	1,600	2,400	—	320	80
修繕部門費	2,400	1,800	600			
倉庫部門費	2,000	750	750	400	100	—
製造部門費				400	420	80
(二次配賦)						
設備部門費				←		
修繕部門費				←		
倉庫部門費				←		
製造部門費						

※考え方：本来、何回も補助部門にも配賦していくことが理論的には正しいが、煩雑であり、キリがないので、2回目は製造間接費のみに配賦することになっている。

(解答)

(1) 直接配賦法

補助部門でかかった費用を直接製造部門のみに配賦する方法（補助部門間の経費のやり取りは無視する方法。）

部門費集計表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
部門個別費	29,600	10,000	12,000	4,100	2,000	1,500
部門共通費	6,400	2,000	3,200	300	400	500
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000

配賦基準資料

補助部門	配賦基準	第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
設備部門	機械運転時間	40 時間	60 時間	—	8 時間	2 時間
修繕部門	修繕回数	15 回	5 回	—	—	—
倉庫部門	従業員数	15 人	15 人	8 人	2 人	2 人

次のように補助部門費の経費を各製造部門へ配賦する。（設備部門の「8 時間、2 時間」、倉庫部門の「8 人、2 人、2 人」は無視して製造部門へ配賦する。）

製造間接部門別配賦表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000
設備部門費	4,400	1,760	2,640	←	←	←
修繕部門費	2,400	1,800	600	←	←	←
倉庫部門費	2,000	1,000	1,000	←	←	←
製造部門費		16,560	19,440			

※考え方：簡便なやり方だが、やや乱暴なやり方である。

(2) 相互配賦法

2段階に分けて補助部門の製造間接費を製造部門へ配賦する方法。まず、第一段階で補助部門にも配賦を行い、第二段階で製造部門にのみ配賦していく。

部門費集計表

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
部門個別費	29,600	10,000	12,000	4,100	2,000	1,500
部門共通費	6,400	2,000	3,200	300	400	500
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000

配賦基準資料

補助部門	配賦基準	第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
設備部門	機械運転時間	40 時間	60 時間	—	8 時間	2 時間
修繕部門	修繕回数	15 回	5 回	—	—	—
倉庫部門	従業員数	15 人	15 人	8 人	2 人	2 人

第一段階として、補助部門費を製造部門と補助部門に配賦する。(倉庫部門から倉庫部門など、同じ部門へは配賦しません。)

製造間接部門別配賦表 (一次配賦)

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	(4,400)	(2,400)	(2,000)
(一次配賦)						
設備部門費	4,400	1,600	2,400	—	320	80
修繕部門費	2,400	1,800	600			
倉庫部門費	2,000	750	750	400	100	—
製造部門費		16,150	18,950	400	420	80

第二段階として、残った補助部門の経費を製造部門のみに配賦する。

	合計	製造部門		補助部門		
		第一製造部門	第二製造部門	設備部門	修繕部門	倉庫部門
計	36,000	12,000	15,200	4,400	2,400	2,000
(一次配賦)						
設備部門費	4,400	1,600	2,400	—	320	80
修繕部門費	2,400	1,800	600			
倉庫部門費	2,000	750	750	400	100	—
製造部門費				400	420	80
(二次配賦)						
設備部門費	400	160	240	←		
修繕部門費	420	315	105	←		
倉庫部門費	80	40	40	←		
製造部門費	36,000	16,665	19,335			

※考え方：本来、何回も補助部門にも配賦していくことが理論的には正しいが、煩雑であり、キリがないので、2回目は製造間接費のみに配賦することになっている。